

### 3 環境共生さきがけのまち

#### (1) 環境にやさしい生活を進めます

##### ① 基本方針

- ・省エネルギー、省資源化を実行し、自然エネルギーの利用を進めます。
- ・ごみの3R（発生抑制、再使用、再資源化）を進めます。

##### ② 行政の役割

- ・省エネ住宅、省エネ家電、自然エネルギー機器の助成などの情報提供を実施し、普及・促進に努めます。
- ・各小学校に環境学習を実施するとともに、市民や事業者、学校、地域でエコライフの取組を広げていきます。
- ・環境家計簿を活用し、公共施設などでエネルギーの削減を図るとともに、自然エネルギーの導入を進めます。
- ・分別収集を徹底し、ごみの発生抑制や資源化を推進します。
- ・集団回収団体・回収業者の再生資源回収の取組を奨励し、集団回収制度を促進します。
- ・公共施設などの剪定枝や給食残渣を堆肥化するなど、資源の有効活用を進めるとともに、子どもたちに対する環境教育に役立てます。
- ・現環境クリーンセンター・リサイクルセンターの長期活用を図るため、施設の計画的な管理・保全に努めます。

③ 成果指標

	成果指標名	成果指標設定の考え方	現状値 平成 26 年度 実績値	前期基本計画 平成 32 年度 目標値	後期基本計画 平成 32 年度 目標値
1	地球環境保全のために意識・行動している市民の割合	環境にやさしいライフスタイル・事業活動の拡大のためには、市民一人ひとりが身近な問題としてとらえることが必要であるため、箕面市市民満足度アンケートにおける地球環境保全意識の向上と行動の推進状況を指標に設定し、最終目標値を 90%とする。	77%	90%	90%
2	積極的にごみ減量・資源化に取り組んでいる市民の割合	環境保全のための具体的な取組として、ごみ減量や資源化などに取り組んでいる市民の割合が増えることが環境にやさしいまちづくりに貢献するものとして指標に設定し、最終目標値を 90%とする。	66%	90%	90%
3	温室効果ガス (CO2) の排出量	環境負荷を低減させるための取組状況を示すものとして、温室効果ガス (CO2) の排出量を指標とする。目標値は、2030 年 (平成 42 年) までに 2013 年 (平成 25 年) 比で 26%削減するという国が示した目標を按分して算出した 10.7%削減後の値とする。	64 万 2 千 t (2013 年度)	—	57 万 3 千 t

## (2) 市街地における環境を保全し、水とみどり豊かなまちをつくれます

### ① 基本方針

- ・まちのみどりを守り生かすことで、みどり豊かな都市景観の形成、環境共生型のまちづくりを進めます。
- ・市民・事業者・行政などが互いに連携し、みどりや自然エネルギーを取り入れた環境共生型のまちづくりを進めます。
- ・上下水道施設の計画的な改築・更新、効率的な維持管理を図り、地球環境に配慮した上下水道事業の経営を進めます。

### ② 行政の役割

- ・市民や企業が行う緑化活動を支援します。
- ・市民一人ひとりが豊かなみどりを守る担い手としての意識や機運を高めるためにも、自主管理活動団体のさらなる拡大に努めます。
- ・条例などの適正な運用や地域の取組を支援することにより、市街地の緑化を誘導します。
- ・環境共生型建物の普及に努めます。
- ・地域とともに市街地の緑地保全や水辺環境の保全に取り組みます。
- ・「箕面市上下水道施設整備基本・実施計画」に基づき、上下水道施設の計画的・効率的な整備・保全に取り組み、下水道事業においては、2016年度（平成28年度）に使用料の引き下げを行ったうえで、上下水道事業ともに効率的な事業運営に努め、健全財政を維持します。
- ・雨水浸透柵の設置や雨水の散水利用などを普及させます。また、下水(汚水)の適切な排水に努めます。

### ③ 成果指標

	成果指標名	成果指標設定の考え方	現状値	前期基本計画	後期基本計画
			平成 26 年度 実績値	平成 32 年度 目標値	平成 32 年度 目標値
1	緑化空間面積 (公園面積)	市街地におけるみどりの保全・育成により、まちなかのみどり空間を増やすことは、みどり豊かな都市景観を形成することにつながるため、公園面積を指標に設定し、最終目標値を 2,756ha とする。	2,710ha	2,756ha	2,756ha
2	道路自主管理活動団体の数	道路自主管理活動団体を支援していくことが、身近なみどりを守り育て、豊かな環境をはぐくむことにつながるため、道路自主管理活動団体数を指標に設定する。年間 1 団体増加を目標とし、最終目標値を 37 団体とする。	31 団体	—	37 団体
3	まちなかのみどり支援制度助成件数	山間・山麓部のみどりとともに市街地に広がる農地や公園、街路樹など身近なみどりを守り育てることが豊かな環境をはぐくむことにつながるため、まちなかのみどり支援制度の助成件数を指標に設定し、最終目標値を 150 件とする。	114 件	150 件	150 件
4	長期優良住宅の認定戸数	安心して住み続けられる住宅を的確に表す制度として長期優良住宅認定制度があるため、長期優良住宅の認定戸数を指標に設定し、最終目標値を 2,200 戸とする。	1,367 戸	960 戸	2,200 戸
5	上水道経費回収率	上水道事業の安定的、継続的な経営を図るため、経費回収率（上水道料金でどれだけ給水原価を回収できているかを表すもの）を指標に設定する。今後の更新等に要する建設改良費を確保しつつ、毎年度 100%以上を維持することを目標とする。	99.9%	100%以上	100%以上
6	下水道経費回収率	下水道事業の安定的、継続的な経営を図るため、経費回収率（下水道使用料でどれだけ下水処理原価を回収できているかを表すもの）を指標に設定する。今後の更新等に要する建設改良費を確保しながら、2016 年度（平成 28 年度）からは使用料値下げを実施しつつ、毎年度 100%以上を維持することを目標とする。	108.6%	105%以上	100%以上

### (3) 人と環境にやさしい交通体系を整えます

#### ① 基本方針

- ・公共交通の利用を促進し、マイカー依存を軽減するとともに、低公害車の普及を進めます。
- ・歩行者や自転車が快適に移動できるような道路を充実し、安全で円滑な交通を確保します。
- ・鉄道の延伸やバス路線網の整備を進め、利便性向上と環境負荷の軽減に取り組みます。

#### ② 行政の役割

- ・公共交通の利用促進策に取り組むとともに、低公害車の普及に努めます。
- ・歩行者・自転車の安全確保に向けた整備・改修工事や交通規制及び駐輪場の整備改修などに取り組みます。
- ・交通管理者と連携し交通安全の推進及び規制の強化に取り組みます。
- ・北大阪急行線の延伸に合わせ、バス路線網を再編し、市内の東西方向の交通利便性向上を図ります。
- ・今後のまちづくりを見据えた都市計画道路の整備に取り組みます。
- ・広域的な交通基盤の整備にあたっては、環境への配慮に努めるとともに、事業費の縮減や負担の平準化に取り組みます。

③ 成果指標

	成果指標名	成果指標設定の考え方	現状値	前期基本計画	後期基本計画
			平成 26 年度 実績値	平成 32 年度 目標値	平成 32 年度 目標値
1	自家用車の利用率	自動車から公共交通機関への利用転換が進むことが、自動車による環境負荷の軽減につながることから、自家用車の利用率を指標に設定し、最終目標値を 22.4%とする。	24.7%	22.4%	22.4%
2	徒歩・自転車で移動する人の割合	歩行者・自転車にやさしい交通基盤を整備した結果、徒歩・自転車で移動する割合が増えると考えられることから、これらの割合を指標とし、最終目標値を 32.2%とする。	29.3%	22.8%	32.2%
3	鉄道・バスの 1 日の乗降客数	鉄道の延伸やバス路線網の整備など公共交通の充実、鉄道・バスの乗降客数に反映されることから、1 日の乗降客数を指標に設定し、最終目標値を鉄道 77,000 人、バス 28,000 人とする。	鉄道 36,039 人	鉄道 89,800 人	鉄道 77,000 人
			バス —	バス 27,000 人	バス 28,000 人